

舞鶴医療センター附属看護学校

まいづる☆かん GO!!

第9号 発行日:平成24年3月28日

〒625-8502

京都府舞鶴市字行永 2410 番地

Tel:(0773)63-4338 Fax:(0773)63-3014

アドレス kyokan-d@maizuru-mc.jp



お久しぶりです。今年は記録的な大雪に見舞われとっても大変でしたね。雪の重みで家がつぶれたり自然の怖さを改めて実感しました。少しずつではありますが、日に日に温かさもあり、春を感じさせる日も出てきました。3月と言えば卒業の季節ですね。新たな出会いと別れの月となりました。第9号では各学年の振り返りや予餞会、卒業式など掲載しています。最後までお付き合いください。



☆ 1年生・・・基礎看護学実習Ⅰを終えて ☆

～初めて病棟に行きました 緊張の連続～

2月1日(水)から6日間、初めての实習で、患者様を受け持たせていただきました。入院前の生活とは全く異なる生活を送られ、今まで当たり前できていた生活行動が、入院という病棟環境の中で行うしかなく、さらに病気により歯磨きや、洗面、入浴や身だしなみといった生活動作が行えなくなるという状況にある人たちに対し、初めは「できない人」と対象を捉えていました。しかし、患者様や指導者さんの指導により、「今までできていた人」「生活動作を獲得されている人」であり、それらを理解した上で、入院前の生活に少しでも近づけるように手を差し伸べるという援助を行うことが大切であるということ学びました。実習前には生活援助技術の練習をいっぱい行い、実習に挑みましたが、対象の個別性に合わせて援助を行うことの難しさも実感しました。少しでも患者様に寄り添い、安心して入院生活が送って頂けるように、これからも勉強や技術習得に励みたいと思います。お世話になった患者様、スタッフの方々、本当にありがとうございました。



☆ 2年生・・・基礎看護学実習Ⅱ・成人看護学実習を終えて ☆



～自分たちの援助が与える影響がこれほど大きいとは・・・～

基礎看護学実習Ⅱでは、対象を理解するために、病気からくる症状、治療や検査が対象の日常生活に与える影響についてアセスメントし、その対象にあった日常生活行動に働きかける援助を学習しました。

成人看護学実習では、成人期の特徴を三側面で捉え、対象のこれまでの生活背景(環境)や社会的役割を理解しつつ回復期、慢性期での経過の違い、生活環境の変化、身体機能の変化、社会的役割の変化などに伴う対象の二一ドの変化や援助の違いを学びました。



実際に援助を行っていく中で、自分たちが行う言葉かけや援助ひとつひとつが患者様の身体面や精神面に与える影響の大きさに戸惑いを感じました。しかし、これが看護という仕事なんだと感じ、学ぶことができました。これらの学びをもとに、もっともっと知識や技術を養って、少しでも患者様に安心して頂けるような援助が行えるようにしたいです。本当にありがとうございました。

☆ 3年生・・・国家試験を終え、そして卒業式 ☆

～涙・涙の卒業式 あらたな始まり～

今年も2月26日(日)に第101回看護師国家試験に33名が受験しました。前の日に大阪にみんなで行き、みんなで最後の問題解きを行いました。が、・・・解答を間違えるたびに焦ってしまい冷や汗をかきました。当日は見る人見る人がみんな賢そうに見え、「大丈夫!」と言い聞かせましたが、いざ試験会場に入ると緊張の連続でした。

3月7日(水)に第63回卒業式が行われました。前日までにリハーサルをしっかり行い準備万端。いざ本番へ!! 式が始まり、ひとりひとり名前を呼ばれると、今までの3年間の、楽しいこと、悩んだことなど思い出がよみがえり、特に実習でお世話になった患者様との学びがよみがえりました。これで学校生活が終わるという喜びと、寂しさが入り混じり、たくさんの人に出会い支えられ、ここまで来たという実感と感謝の気持ちでいっぱいとなり、涙が止まりませんでした。一緒に学校生活を送った仲間に「ありがとう」と同時に「頑張ろうね!」「元気でね」と言いあいました。



☆予餞会☆

～ わはははっ!! ～



今までお世話になった3年生の皆さんに、1・2年生が主となって予餞会を行いました。各学年で歌や踊りなどの催しを行い、みんなが一体となって3年生に感謝の気持ちを伝えました。そして、3年生から在學生に感謝の気持ちとともに、「みんなひとつになって最終目的である看護師国家試験に挑んでほしい」と言葉を頂きました。「先輩!! 私たちなら大丈夫! だって先輩の後輩だよ!! 先輩に見習って力を合わせて頑張っていきます!」



☆特別講義☆

～テーマ「未来の看護師達へ：後輩看護師に伝えたいこと～



この卒業生であり、大先輩である宝塚大学看護学部学部長：柴田恭亮先生（10回生）をお招きし、精神看護を通し看護の魅力や看護師としての態度を講義して頂きました。学生からは看護を行うにあたり、看護の歴史や、人物（対象）の過去、近年の社会情勢を理解しなければ看護ができない。対象の言動には必ず何か意味があるので、どのような思いがあり気持ちを抱いているのか考え、援助を行っていくことの大切さを学びました。という意見がありました。

柴田先生からは「これからの看護、医療を担う方たちに伝えたいことが伝わり嬉しく思います。また、50年ぶりに舞鶴に帰ってきましたが、家族のもと帰ってきたような印象を受けた」との言葉を頂きました。

～特別講義～

12月20日、当院、吉岡臨床研究部長、出雲師長により脳卒中医療についての講演がありました。研究結果を踏まえた脳卒中の症状と治療の関連性を分かりやすく説明していただき、実施している看護の根拠に繋げて考えることができました。また、京都府北部の脳卒中医療における舞鶴医療センターの役割の重要性を再認識しました。

3月8日、当院、小松小児科医長、田畑師長をお招きし、当院で行われている「成育医療」について講演がありました。東日本大震災で被災した子供たちのことや病院、病棟での看護について写真を使って紹介されました。子ども達は、地震ごっこや津波ごっこといった大人では理解しがたい行動をとることがあるが、それは子どもなりの自己表現で、自己治癒の過程であるということが分かりました。対象の行動には、必ず何か意味があり、対象の発する一言一言を注意深く聞き、言葉に込められた思いを理解することで、その人にあった援助を実施することができる。」などの意見が聞かれました。



☆ 3 学年合同 看護の発表会

～ 互いに刺激しあって ～

今年度も3学年合同看護の発表会を行いました。3年生2題、2年・1年生各1題、それぞれの学年が実習で学んできたことを発表し、意見交換しました。学生たちの感想や意見を紹介したいと思います。

☆先輩方の発表を聞かせて頂いて、先輩方は対象の想いに寄り添えるよう常に意識し取り組んでおられることが分かりました。発達段階を理解した上で対象理解をしていく。自分たちも対象の想いに寄り添えるように頑張っていきたいです。先輩ってほんとすごいです。

☆当たり前の生活を送ることがこんなに素晴らしいことなんだ。と感じることができました。

☆あたり前だけど、日々の生活（入院生活）の中で対象の何気ない言葉や動作にも必ず「想い」や「意味」があるということを知り、常に耳を傾けそこから今何を考え、望んでおられるのか考え、自分たちが今できることを考え行動することの大切さを教えて頂きました。

☆来年の今頃、自分たちも先輩たちのように理論を用いて発表ができるのかと心配になりました。理論を用いることで自分たちの看護がより確かなものになるんだなあと思いました。

☆後輩たちの学びを聞き、昔の自分たちを思い返し、新鮮な気持ちになれました。初心を忘れないようにこれからも頑張っていきたいです。

各学年の学びを発表しあい聞くことで刺激となり、新たな気持ちや決意ができたようです。



☆学校公開☆

～すごい～

今年度最後の学校公開が3月24日（土）に行なわれました。この1年で6回実施し、参加して下さった人数は143名でした。たくさんの方に、看護の素晴らしさ、当校の良さを知って頂き「すごく雰囲気がよくてとても良い感じでした。皆さんとても優しく親切に接してくれたので嬉しかったです。ぜひ入学したいと思いました。」などたくさん素敵なコメントを頂きました。来年度もこの学校の良さを感じて頂くために、学校公開を行います。皆さん是非来て、感じてください。

☆終わりに☆

次回第10号の発刊では、入学式・新入生歓迎会・看護の日などについて掲載する予定です。楽しみにしてください。次号（第10号）は、6月下旬に発刊予定です。この学校新聞「まいづる☆かん GO!!」はホームページでも観覧できますので、一度ホームページも見て下さいね。アドレス (<http://www.hosp.go.jp/~maizuru/school/>) です。お待ちしております。

